



石巻市長 亀山 紘

年頭のごあいさつ

平成29年の年頭に当たり、謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

東日本大震災から間もなく6年が経過しようとしておりますが、いまだ不自由な生活を余儀なくされている多くの被災された皆さまに心からお見舞い申し上げます。今後も、住まいの再建をはじめ復興事業のさらなる加速化に向けて進取果敢に取り組んでまいります。

「石巻あゆみ野駅」の営業をはじめ、9月には石巻駅前到新市立病院が開業、渡波地区で石巻東消防署が運用を開始し、12月には石巻赤十字病院敷地内に夜間急患センターが開設する等、市民が安全に安心して暮らすことができる医療・福祉・防災の基盤が形になってまいりました。

また、防災集団移転事業による宅地供給や復興公営住宅への入居が本格化する中、昨年6月に「石巻市被災者自立再建促進プログラム」を策定し、移転先におけるコミュニティの再構築、

孤立防止といった復興の進展に伴う課題の解決や仮設住宅の解消に全庁を挙げて取り組んでまいりました。

本年は、全ての地区で防災集団移転事業による宅地供給を開始する予定であり、待機児童の解消や子どもの健全な教育環境を整備するため、釜、渡波、雄勝保育所や渡波中学校、雄勝小・中学校の移転新設を予定しているほか、にぎわいのある中心市街地を再生させるため「仮称」生鮮マーケットをはじめとした「かわまち交流拠点」の整備、各地区においても総合支所を拠点とした地域の特性に合ったコンパクトシティ化を進め、地域全体で支えあうまちづくりを推進してまいります。

また、本年は、復興期間の「再生期」の締めくくりに当たる「発展期」につなぐ大事な年となります。そして、「発展期」の最終年度の平成32年度に開催される東京オリンピック・パラリンピックは「復興五輪」と位置付けられています。市民一丸となって復興を果たし、生まれ変わった石巻の姿を全世界に示せるよう、市民の皆さまのご協力をお願い申し上げます。幸多き年になりますことをお祈り申し上げます。新年のごあいさつといたします。

中学校でも努力惜しまずに

すぎやま りゅうのすけ
杉山 隆之助さん
牡鹿地区・平成17年生まれ

小学校の最上級生となった昨年は、下級生の手本となるような生活を送るよう心がけてきました。家ではお風呂の掃除をしたり、妹や弟たちに勉強を教えたりしながら毎日を過ごしました。

今年は中学生となり、環境も変わりますが、得意な理数系の科目だけではなく、苦手科目も克服して成績上位を目指したいです。また、部活動は野球部に入り、ピッチャーになることを目標に練習に励んでいきたいです。

落ち着いた1年願う

きむら ゆりこ
木村 百合子さん
石巻地区・昭和32年生まれ

昨年は自宅の建て替えや娘の結婚式等でバタバタした1年でした。そのせいか体調を少し崩し、20年以上勤める会社で初めて長期休暇をもらう等、疲れが見えた年でした。

ちょっとしたことが大きな病につながるかもしれない年齢を迎え、今年はやはり健康が第一です。元気に仕事を続けながら、自宅の敷地で野菜や花等の土いじりを楽しみたいです。また、学生時代から続け震災後に中断していた洋裁を再開したいと考えています。



年男・年女の皆さんに今年の抱負や将来の夢を伺いました。

干支の特徴

理解力、洞察力に優れ、先を見抜く直感を持っています。頭の回転が早く、集中力、持続力もあるためチャンスを生かし成功する人が多いです。人間関係面では、親切で面倒見がよく、社会的なので周囲から慕われています。今年も笑顔で羽ばたく1年となるでしょう。

トリに関することわざ

「むしろ鶏口となるも牛後となるなかれ」
大きな集団の中で付き従う者となるよりも、むしろ小さい集団であつても、長となる方が良いという意味です。

仕事で復興サポート

えんどう ゆうと
遠藤 優斗さん
北上地区・平成5年生まれ

震災から5年がたち、待ちに待った自宅が完成しました。広い空間で快適な生活を送ることが出来て、ようやく一段落といったところです。…と、いっても世間はまだまだ復興に向かって進んでいる最中です。私は、医療事務という仕事を通して、石巻の医療体制をサポートし、復興の後押しが出来ればと思っています。

いずれは自宅を出るつもりですが、それまではここで楽しく健康に過ごしたいと思います。そこで我が家に一言「これからよろしく！」

文武両道を極めたい

たかはし さくらさん
高橋 さくらさん
石巻地区・平成17年生まれ

空手を習っています。昨年は全国大会の組手の部で優勝することができました。3年生のときには、4年に1度の世界大会で3位になり、これまでさまざまな経験をすることができました。

今年は最上級生として勉強も、空手も頑張り、「文武両道」で後輩たちの手本になりたいです。また、今年には世界大会が開かれるので、師範や先輩方の指導を受けながら稽古に励み、再び世界の舞台に立ちたいです。

夫婦二人三脚で健やかに

かみやま せいこ
神山 齊子さん
雄勝地区・昭和20年生まれ

復興公営住宅へ移り1年が過ぎ、穏やかに生活しています。近所には震災前からの隣人たちが移り住んでおり、コミュニティもそのまま維持されています。

夫婦2人暮らしです。船乗りだった夫の体調のためにも、また、もう一度地元の海で仕事をするためにも、一緒にリハビリを兼ねて散歩をしています。合間には趣味のかご作りや畑仕事も楽しみながら、ぜいたく言わず二人三脚で健康に過ごしていければと思います。

健康で農作業を続けたい

たかはし たかはる
高橋 匡春さん
河北地区・昭和8年生まれ

昨年は、健康第一で何事もなく順調に過ごせました。今年も同じように、長年続けてきた農業に精を出していきたいです。機械いじりも好きで、農業機械を整備する時間も楽しいです。

老人会で5年ほどグラウンドゴルフを楽しんでおり、今年もゲームをしながら仲間たちと交流を深めていきたいです。

新年の具体的な目標はありませんが、毎日何かしら忙しく体を動かし、健康に暮らしていけることを願っています。

家族みんなで笑いながら

たかはし ひろみ
高橋 宏美さん
桃生地区・昭和56年生まれ

昨年は、長女が高校に、次女が中学にそれぞれ入学しました。末っ子で2歳の長男が保育園に通い始め、子どもたちの生活環境が一度に変わりました。成長を実感した、あっという間の1年でした。

姉弟の中で年齢の離れた長男は家族や親戚に見守られて元気に成長しています。2人の姉たちも弟の面倒を積極的に見てくれています。今年も家族みんなが健康に過ごし、明るく笑いの絶えない年となることを期待しています。

子どもたちの飛躍の年に

きむら こうぜん
木村 孝禅さん
河南地区・昭和44年生まれ

昨年は、山あり谷ありの1年でした。北村で小規模住居型の児童養育施設を運営しており、家族や多くの子どもたちと喜びと悲しみを共有して日々を過ごしてきました。少年野球にも関わっており、週末等も忙しく過ごしてきました。

今年はず健康第一に一日一日を大切にしていきたいです。一緒に暮らしている子どもたちは進級や進学を迎え、飛躍の年になると感じています。その活躍を陰ながら支えていければと思います。